～みんなで支える地域の笑顔～

# ☆地域包括ケアふじえだプロジェクト☆

令和7年2月12日　VOL. 198

## 認知症とともに生きる共創のまちづくりワークショップを開催！

誰もが安心して認知症とともに生きることができるまちづくりを進めていくために、多様な世代や立場の方の声や意見から、共に考え、「認知症施策推進計画(仮称)」の策定につなげていくためのワークショップ（全２回）を開催しました。

| 日　時 | 参 加 者 | 内　容 |
|---|---|---|
| **第1回**（駅南図書館会議室）<br>**令和6年12月15日** | **延べ104名が参加**<br>（10代～80代までの市民、認知症の本人や家族、学生、お店や企業、医療や介護従事者、市役所職員が参加） | • **認知症当事者によるリレートーク**<br>**「私たちが思う～認知症とともに生きる共創のまち～」**<br>• **グループワーク** |
| **第2回**（生涯学習センター）<br>**令和7年　2月　3日** | | • **トークセッション「暮らしやすいまちを共に創る」**<br>**～認知症の人・家族・企業それぞれの立場から～**<br>• **グループワーク** |

**島田掛川信用金庫 支店長**
**大石 一善 氏　働きやすい職場づくり**

介護休暇・休業をいかに職員が認知しているかが重要。職員には年２回のヒアリングの中で、介護が必要な家族がいるか確認し、制度について伝えている。介護休暇・休業をとりやすい環境づくりは企業としての課題だと考えている。

**長野 雅子 氏　家族の思い**

旅行やコンサートなど積極的に外出した。サロンに参加し近所の人と過ごし、地域でのふれあいの大切さを感じている。（認知症になってからも）全てが失われることはない。書くことが好きで今でも必ずノートと鉛筆を持ち、感性は失われない。11年経ち、お互いに体力の衰えを感じ、これからどのように向き合っていくか岐路に立っている。本人とともにどう過ごすか考えていきたい。

**久保 亜紀子氏**
**認知症になって分かること**

鍵を失くす等の変化があり、受診をして診断を受けた。家事全般が役割。火が心配で安全なコンロに変えた。鍵の紛失にも備え、エアタグをつけて工夫している。友だちにも伝え、変わらない付き合いでランチやスノボも楽しんでいる。周りのサポートを受けながら生きている。悲観的にならず、楽しく生きていきたい。

**グループワーク① 安心して認知症とともに生きることができるまちに必要なこと**（抜粋）

**理解：** 当たり前は人それぞれ・子どもの頃から認知症について知る機会がある
本人の声を発信する・いずれは認知症になるという自分事としての理解

**自立を後押しできる：** 本人が希望を持てる・本人がやりたいことを続けられる
失敗しても良いから挑戦できる環境・工夫を一緒に考える

**支え合い：** 困ったときに頼める、相談できる・できないところを分かってくれる
柔軟に声がかけられる、助け合いが自然にできる

**環境：** 買い物での支払いが安心してできる・安心して移動できる交通手段がある
認知症になってからも働ける・家族も働き続けられる
本人も家族も垣根を作らず集える場所がある・水路等の蓋や安全な歩道

**相談体制：** 自分から意思表示できる・本人が自分で相談しやすい場所がたくさんあること・家族のケア・声をかけ繋げる役割の人が多くいる

**国の「認知症施策推進基本計画」**では、**認知症の人や家族の暮らしは様々な分野にまたがるため、関係部局間で分野横断的に取り組むことが重要**であると示されています。**本市**でも**市、及び多様な主体がそれぞれの個性と能力を発揮し、創意工夫により新たな発想や取組、仕組みを創出する「共創」により「認知症施策推進計画(仮称)」の策定**や**認知症施策を総合的な取組として推進**していきます。

藤枝市 Fujieda City
健康福祉部 地域包括ケア推進課
TEL 054-643-3225　E-mail chiikicare@city.fujieda.lg.jp

バック№の検索は